

第3回 中等日本語教育授業教案コンテスト

教 案

【注意事項】

※項目は全て埋めてください。

※実際のクラスを想定しながら、学生に対する指示や説明、やり取りの言葉など詳しく書いてください。

※授業時間は、1 コマ 40～45 分です。 ※教案は日本語で書いてください。

学校名：上海外国語大学閔行外国語中学		姓名：王聖娟（王圣娟）		
使用教科書：新界標日本語総合教程 2 第 11 課 （全 16 コマの内、本教案は 14 コマ目）				
1 コマ 40 分				
【要選択】（ <u>高校</u> ・中学） 2 年 クラスの人数 7 人				
【要選択】 <u>第一外国語</u> 第二外国語 課外活動 その他（ ）				
日本語学習歴 1.25 年				
この授業の到達目標 発表者にとって： ある現象や課題に対して改まった表現で自分の意見や感想をはっきり表現することができる。 聞く人からの講評に対して適当に返事することができる。その講評をまとめて振り返ることができる。 聞く人にとって： 構成や論点をはっきりしている短いスピーチであれば、大部分の内容を理解することができる。 聞いたスピーチに対して、感想をまとめて、項目分けで自由に講評することができる。				
この授業の学習項目 「使役」および「使役＋授受」にかかわっている表現を相応しい場面で活用すること 使役：V（さ）せる 使役＋授受：V させてもらう／V させていただく				
時間	段階 (授業の 流れ)	練習・活動の内容（詳しく書いてください）	練習・活動の目的	注意点・ 使用するもの
0	授業前	1. 学んだ文法（「使役」、「使役＋授受」など）を学生に復習させる。 2. <理解・表現>の本文（<スピーチ大会の講評（中山先生）>）を詳しく読ませる。 3. 前回の授業で決められた課題「私にとって面白い中日文化の比較」について発表を用意させる。	1. 学生は次の授業での発表用語及び講評用語のために準備しておく。 2. 講評内容の参考になれる。	・教科書 P301－303、P295－296 ・以下は学生をS、教師をTと略する。 ・机を事前に半円のように置いておく（文末にある添付の写真を参考）。
2	導入	T: みなさん、今日は私たちのスピーチ大会を行うことは、前回の授業で約束しましたね。皆さん、準備できましたか。（笑） S: …… T: 時間に限られて、今回のまず3人に発表してもらって、残りの4人は次回の授業で発表	発表の順番を決める。	・抽せん用具 ・「発表者」と「審判員」の名札

※2 ページ以上になってもいいです、詳しく書いてください。ただし、項目は変更しないでください。

		してもらいますね。まず、今日の発表の順番を決めなきゃ～ (S に抽せんしてもらいながら、一人に「発表者」と「審判員」の 2 枚の名札を S に配る) T: おめでとうございます！一人目は〇〇さんです！(拍手を指示) 二人目は▲ ▲さんで、三人目は□□さんです！(拍手を指示) S: ……		
5	展開	T: でも、今日のスピーチ大会では、私は審判員ではないんですよ。今日私は司会者です。一人が発表しているとき、のこりの六人に審判員の役をお願いしたいですね。みなさん、審判員の役って何でしょうか。知ってる人？ S: …… (何人かに答えてみてもらう) T: そうですね。審判員は、皆さんが言ったように、採点する人ですよ。じゃあ、何について採点するんですか。 S: …… T: そうですね、よく言ったんですね。もうちょっと詳しく知りたいですね。皆さんなりの審判スタイルを (笑) (T が用意した未記入の「スピーチ採点項目総表」を一人に 6 枚 S に配り、スライドを見せながら、総評の書き方を説明する) T: 皆さんは、グループ分けてください。そして、この表の 7 項目の中の 5 項目をグループで決めてください。あと 2 項目ありますね。どうしましょう。(目線で学生に問いかける) S: …… T: そうですね。残りの 2 項目は自分で自由に決めてください。みなさん、満点が 100 点で、それをもとにして決めてね。…… (掛け点の計算方法など詳しく説明する) S: …… (グループディスカッション中)	審判項目を決める。 審判方法や満点などの細部も確認する。	「スピーチ採点項目総表」(添付資料を参考) T は巡りながら、S のディスカッション進行状況を確認する。 T のスライド
3	発表 1	T: はい、時間です。皆さんが熱く深く話し合っってとても素晴らしいと思います。では、いよいよ本番ですので、発表の人は「発表者」の名札を、審判員は「審判員」の名札を付けてくださいね。最後の一言ですが、礼儀正しくスピーチすることも忘れないでね。では、〇〇さん、どうぞ。(拍手を指示) S (〇〇さん): 本日日本語の授業で発表させていただき、誠にありがとうございます。私のスピーチのテーマは『ウマむすめ』から見た日本の競馬文化」です。……	S に「使役+授受」に関する敬語表現を提示する。	前回の授業で教えた「使役+授受」の改まった場面での使い方を再び提示する。 発表者のスライド
5	講評 1	T: すごいです。〇〇さん、ありがとうございました。(拍手を提示) 審判員のみなさま、い	聞く S がスピーチの内容を理解し	S の言葉遣いが適切ではない場

※2 ページ以上になってもいいです、詳しく書いてください。ただし、項目は変更しないでください。

		かがでしょうか。では、皆様のご講評を聞かせていただきます。A さん、どうぞ。 S (A さん) : 大変面白いスピーチを聞かせていただき、ありがとうございます。…… S (B さん) : …… S (C さん) : …… S (D さん) : …… S (▲▲さん) : …… S (□□さん) : …… T : 皆様からのご感想を興味深く聞かせていただきました。ありがとうございます！	たかどうかを確認する。 S がコメントを出す時、自分が審判員としての立場を意識しているかどうか、講評の内容や敬語などの言葉遣いから判断する。	合、司会としての T は柔軟に対応する。その場で直接に直すのではないのだ。まとめの部分に S に提示する。
2	発表 2	T : では、次の方、▲▲さん、どうぞ～ (笑) (拍手を指示) S (▲▲さん) : 本日日本語の授業で発表の機会をいただき、大変うれしく思います。私のスピーチのテーマは「中国にも大人気な日本ドラマ『アンナチュラル』」です。……	発表 1 と同じ	発表 1 と同じ
5	講評 2	T : 面白かったですね。▲▲さん、お疲れさまでした。(拍手を提示) では、審判員のみなさまからどんなご感想をいただけるのでしょうか。D さん、どうぞ。 S (D さん) : 私もこのドラマが大好きですね。では、すこし共感できたところを言わせていただきます…… S (C さん) : …… S (□□さん) : …… S (〇〇さん) : …… S (B さん) : …… S (A さん) : …… T : 皆様からとても印象深いコメントをいただきました。ありがとうございます！	講評 1 と同じ	講評 1 と同じ
2	発表 3	T : では、次の方、□□さん、どうぞ～ (笑) (拍手を指示) S (□□さん) : みなさま、こんにちは、□□です。今日「中日の文字の相互影響」について発表させていただきたいです。どうぞよろしくお願い致します。……	発表 2 と同じ	発表 2 と同じ
5	講評 3	T : 論理性がすごいご発表ですね。□□さん、ありがとうございました。(拍手を提示) では、審判員のみなさま、お願いします。〇〇さん、どうぞ。 S (〇〇さん) : □□さんはとてもよくできたと思いますが、……についてもっと詳しく展開してみればいいのではないかと思います。…… S (B さん) : …… S (▲▲さん) : ……	講評 2 と同じ	講評 2 と同じ

※2 ページ以上になってもいいです、詳しく書いてください。ただし、項目は変更しないでください。

		S (A さん) : …… S (D さん) : …… S (C さん) : …… T : 審判員の皆様、お疲れさまでした。今日 3 人分のスピーチは全員終わりました！ (笑) 発表の方々も大変お疲れさまでした。(拍手を提示)		
5	総審判	T : では、いよいよ最後の授賞も審判員の皆様をお願いします。みなさまはそれぞれの採点はすでにできたと思いますが、それに踏まえて、今日の特別賞を皆様に選んでいただきたいですね。(スライドを見せながら説明する) 三つのグループに分けて、一つのグループには 1 とつの特別賞を出すことはできますね。ただ、みなさんは、どんな賞を出すか、とても楽しみです。では、どうぞ話し合ってください。 S : …… (グループ分けで話し合い中)	共通する 5 項目の上、それぞれの自由の 2 項目も含め、発表者のスピーチの違うことを S に見つけてもらう。 空白のお祝い状を 1 枚ずつ各グループに配り、賞の名前を記入してもらう。	空白のお祝い状
3	授賞式	T : では、皆様も期待される結果はいよいよですね。では、授賞式は始まります。(スライドを S に見せながら説明する) 各グループは一人の代表を選んで、賞の名前と受賞人を発表していただきます。また、簡潔なご講評も一言をお願いしますね。 S : うちのグループは「優れた内容賞」を授賞したいと思います。では、受賞者を発表させていただきます。XX さん、おめでとうございます！ (記入済みのお祝い状を XX さんに渡す) …… (一言の講評) T : XX さん、おめでとうございます！ ご感想をお願いします。 S (XX さん) : ありがとうございます。…… (簡潔な感想) T : 次のグループの審判員、どうぞ。 S : では、「印象的な演技賞」を選定させていただきました。YY さん、おめでとうございます！ (記入済みのお祝い状を YY さんに渡す) (T は拍手を提示) …… (一言の講評) T : YY さん、おめでとうございます！ 授賞のご感想を聞かせてください。 S (YY さん) : ありがとうございます。…… (簡潔な感想) T : はい、それでは、次のグループの審判員、お願いします。 S : 私たちは「すごい表現力賞」を ZZ さんに差し上げたいと思います。おめでとうございます	自由に特別賞を決めてもらうことによって、採点総表における自由の 2 項目の種類の豊かさを確認することができる。 代表の審判員の一言の講評によって、グループでまとめた講評の意見もクラス全体と分かち合うことができる。 授賞した発表者の簡潔な感想によって、授業の到達目標である「講評をまとめて振り返る」こともできると考えられる。	T のスライド 各特別賞名を記入済みのお祝い状

		ます！（記入済みのお祝い状を ZZ さんに渡す）……（一言の講評） S（ZZ さん）：この「すごい表現賞」をいただきまして……（簡潔な感想）		
3	まとめ	T：今日の前半のスピーチ大会はこれで終わります。みなさま、お疲れさまでした。とてもよくできましたよ。様々な面白い中日文化を教えてくださいました。 （〇〇さんが使っていた発表用のスライドを見せながら適切ではなかった表現や内容などについて補足し、印象深いところを褒める）〇〇さんは競馬について非常に詳しい情報を伝えてくれました。……というところでもうちょっと丁寧にしていただければと思います。…… （▲▲さんが使っていた発表用のスライドを見せながら適切ではなかった表現や内容などについて補足し、印象深いところを褒める）▲▲さんは『アンナチュラル』というドラマのご発表はとても魅力的で、……という表現も印象的でした。…… （□□さんが使っていた発表用のスライドを見せながら適切ではなかった表現や内容などについて補足し、印象深いところを褒める）□□さんの中日の文字についていろいろ聞かせていただきました。……についてもっと多く聞かせていただきたいと思いますね。…… 以上は私の感想です。楽しい時間はいつもあっという間に。今日の授業もこれで終わりたいと思いますが、次の授業で A さん、B さん、C さんと D さんのご発表も楽しみにしております。 （スライドに書いてある宿題要項を見せながら説明する） 今日皆さんが書いてくれた 6 枚の「スピーチ採点項目総表」を授業後、よりよく補足してから、明日提出してくださいね。そして、明日の後半のスピーチ大会は、項目を改めて決める時間は設けないから、もう 3 枚の総表には今日前もって考えておいてください。今日の総表と違ってかまいません では、今日はこれで、お疲れさまでした。ま	T のフィードバックによってスピーチ大会の場面でいいところと足りないところを柔軟に提示する。 次回のスピーチの審判のためにあらかじめ準備しておく。	各発表者のスライド T のスライド

た明日ね。

工夫点・アピールポイント（どの部分に力を入れて作成したか、どの部分に注目してほしいか など）
第 11 課のテーマは『スピーチ大会の準備』、準備前後を通して、学生に活動の準備・運営・参加などを体験させた。

この授業で、7 人のクラスで、誰でも発表者、誰でも審判員という設定で、スピーチを準備すること、スピーチをすること、更に聞く人として審判することはすべて学生に実感してもらえた。

特に、授業の流れの中の「展開」に力を入れて、講座でいただいた採点表を基にして改編した「スピーチ採点項目総表」を、参考（ある程度はガイド）のために学生に配った。そして、「総審判」にも学生が自分で決めた自由の 2 項目に注目してもらい、グループのディスカッションに踏まえて、「特別賞」を決めてもらった。

アピールポイントとしては、最後の授業式での受賞者の感想だ。「講評 1」「講評 2」「講評 3」を基にして、「特別賞」を授賞するとき代表の審判員にも総講評をもらったため、この感想が振り返りを含めることが、実は強く望ましい。学生にとっては、最後の段階になるから、「ありがとう」と簡単な一言で済ませる可能性もあるかと思うが、この時司会としての教師は適当に提示することもあると考えられる。その楽しい場で、面白い振り返りや返事が出てくるかもしれないと期待できる。

添付の写真：教室の机の置き方



★研修会でどんなことを学び、どのように授業に活かしたか。

参加年： 2021 年 / 研修会名：2021 年長三角地区日語教師研修会

池津丈司先生の講座で「目標と評価」について学ばせていただきました。授業で、教師からの評価ではなく、学生の方からも評価してもらうように試しました。授業の流れでは「展開」、「講評 1」、「講評 2」、「講評 3」、「総講評」などの発表後の評論の部分に取り入れてみました。学生でもうまく評価できる証になるかもしれません。